

第91回 まちづくり夜楽塾記録

「まちの中にいる猫を考えよう！！」

新見正子さん(捨て犬！捨て猫！ゼロの会)
平成21年12月6日(日)18:00~19:30

捨て犬！捨て猫！ゼロの会とは

私達の会は、捨て犬、捨て猫をする人を無くすことを目的に平成19年4月に発足した。設立当初から猫に関する問題が多かったことや、保健所の助成金が一部出なくなったこともあり猫基金という事業を行っている。

猫基金とは、飼い主のいない猫、いわゆる野良猫と呼ばれる猫の不妊手術を一部助成するための基金で、最初の年は4ヶ月で約60万円集まり、メス101匹、オス43匹の手術をした。しかし、基金を継続すると募金が減る傾向にあるため、今年は現時点で約14万円と目減りしている。それでも手術をしてまちの猫が増えない、増やさないようにすることが大切ではないかと事業を進めている。

猫を増やさないという選択 ~地域猫~

地域でまちの中にいる猫を考えると、猫を好きな人だけで考えるのではなく、嫌いな人も交えて話し合いをすることが大切である。

では、実際に話し合いになったと仮定する。猫が好きな人は「猫がかわいそう。」と好きという気持ちを主張するが、猫が嫌いな人は、「おしっこやウンチをされるし、花壇を荒らされて困る。」と主張する。極端だが、猫の嫌いな人は「殺してしましましょう。」と言い、好きな人は「みんなで飼いましょう。」と意見が真っ二つに分かれてしまった。そうなった場合『増やさない』という選択肢があることをみなさんに知っていただきたい。この方法が一番いい方法かは分からないが、今のところ猫と地域の中で一緒に暮らしていくにはいい方法ではないかということで東京や横浜、名古屋、神戸あたりでは地域猫と呼ばれる活動が行われている。

地域で猫を飼うことになったら

話がまとまり地域で猫を飼うことになったとする。しかし猫は簡単に捕まらない。どうしたらいいだろうとなった時、捕獲の仕方や動物病院の選び方、近所への対応の仕方などを知っていればおそらくトラブルは回避できるので紹介する。

猫を捕獲する

ここに捕獲箱がある。会で貸出しをしているが、処分をするための貸出しはしていない。以前は、保健所でも貸していたが、殺処分に出す人がいたので今はやっていない。捕獲機=殺処分というイメージがある為トラップゲージともいう。私達は、東京のNPO法人「ねこだすけ」という会から許可を得て購入しているが一般はなかなか手に入らない。

使い方は、餌が入ったトレーをゲージの奥へ置き、この中で餌を食べた猫が戻ろうとした瞬間に踏み板を踏むと出入口が閉まる仕組みになっている。もう一つの捕獲道具は、ある獣医の先生が発明したもので、見た目は虫取り網だが、網が取り外せて捕まえたら網ごと持ち運べられる。おとなしい猫だったら餌を食べている間に、後ろから近づいて頭から被せてしまえば簡単に捕まえられる。

私達で捕まえることは簡単だが、自分達の地域のことは自分達で解決していくと地域力に繋がる。是非自分達で捕獲からスタートしていただきたい。



動物病院へ連れて行く

よく「安い病院を教えてください。」と聞かれるが、安ければいいというものではなく技術も伴う病院がいいとは思わないか。会では病院の斡旋はしていないが、そういう質問をされた場合、直接病院に聞いてもらうのが一番いいとお答えし、近隣の動物病院の一覧や、事前に聞いたほうが良い質問として、例えば「野良猫の手術を引き受けてくれるか?」とか「避妊したという目印(浜松では耳カット、通称桜カット)をしてくれるか?」などの質問のリストを参考までに渡している。(資料参照)

・猫に餌をやることは飼い主と同じ

「猫に餌をやることは飼い主と同じ」という言葉をよく聞くが私もその通りだと思っている。ただ、そこに猫がいなければ餌をやらないが、猫が好きのためにそこに猫がいたからやってしまった。そこだけは被害者だと思う。だから猫の嫌いな人は少しだけそういうことも考えてもらえるとより譲歩し合って話し合いができるのではないかと思う。

あるまちの話をしたいと思う。そのまちでは猫に餌をやらないと決めて回覧板も出した。それで猫が居なくなったかという居なくならない。なぜかという誰かが隠れて餌をやるようになったから。猫が減るところかゴミは荒らされ、糞尿もひどくなり何も解決しなかった。

どちらの方法がいいのか分からないが、殺すこともできない、増やすことはもっとできないと考えたとき、たった一つ、捕獲して手術をして元の場所に戻す方法しか今のところない。野良猫の寿命は大体5、6年。その間がまんしてくれれば猫は居なくなる。もしもっといい方法があれば教えていただきたい。行政も困っているのですぐ採用する。

近隣への対応

お手元の「飼い主のいない猫をどうすればいいでしょう」という見出しの資料は、実際に地域へ配ったチラシで、こうしたチラシを作りまはみんな考えることが大事である。そして、猫が好きな人、嫌いな人、猫のことはどうでもいい人みんなが譲歩しながら合意していくのが理想的で、もっと理想を言えば、捕獲して手術をして地域で一緒に管理していきましょう。これ以上、猫が増えないように、捨てられないようにしましょう。と共生できればもっといい。

ある地域に実際に入ったことがあるが、みんながそう思ってくれるまでに半年かかった。他の地域ではもしかしたら1年かかるかもしれない。その1年間何もしないと猫がまた増えていく。そうして困ってきたときに私達が「さあやろう。」と後押しをすると物事がスムーズに行く。私達は無理やり猫に手術をしてくださいとは言わない。あくまでも地域の人達の考え方で、まずはそのまちの中にいる猫のことを考えてもらう、もらいたいという思いで話をさせていただいている。

地域力を高める。

たかが猫されど猫で、まちの中にいる猫のことを地域で考えていくことは、極端な話、地震が起きた時や何か事件があったときにみんなで力を合わせられることができるかもしれない。また、いじめの問題や自殺する人が後を絶たないなか、大人が子どもに「命を大切にしなさい。」と言うけれど、命を大切にす行動を大人が起こすことが大事で、私達の活動を通してそういう大人が地域の中で多く活動してもらいたいとそんな風に思いながらやっている。

この辺でみなさんの話も聞きたい。猫のことで考えていることや困っていること、思いなどを教えてほしい。

男性：家の周りに地域猫がたくさんいる。猫派と犬派、嫌い派に分かれていているが、どこで餌をやっているとかあそこに避妊していない猫がいるとか情報を共有しながら協力している。

新見：手術をした後の猫の数はどうか?

男性：どうしても捕まらない場所は増えているが、その場所以外は数が保たれている。

女性：最近、家の裏口付近に母猫(野良猫)が子猫2匹連れてきた。餌をあげてはいけなないと思いつつも私がお飯をあげなければ死んじゃうのかなと思いついてあげている。なかなか飼ってくれる

人もいない。家にはすでに3匹猫がいるのでこれ以上は飼えない。何かいい方法があるかと思ひ参加した。

新見：少ない金額かもしれないが助成金を活用してほしい。募金活動もますます精進していっぱい集めたいと思う。

女性：2匹猫を飼っている。外猫も2匹いる。避妊済みで捕まえるのに3ヶ月かかった。

男性：動物に餌をやりたくなるのは人が本来持っているいいところでもある。今は猫だけでなく、鳥や爬虫類などなんでも捨ててしまうのでそっちも問題だと思う。

新見：世の中にはいろいろな人がいる。いろいろな人がいるからこそ譲歩しながら生き物と共存する方法を考えていかなければいけない。

女性：私の周りでは野良猫を最近見なくなったような気がする。

新見：個人でがんばっている人も増えているのでその成果はあるとは思いますが、殺処分数は減っていない。普通だったら殺処分数が減ってもいいはずだがそこから考えると捨てられる数、産まれる数がいかに多いかが読み取れる。逆に言えばだからこそ個人でがんばっている人が増えているとも考えられる。

女性：特に猫が好きとか犬が嫌いとかはない。家に預かり猫がいるがあくまでも預かっているだけで飼っている訳ではない。

新見：今日はときわ屋の店長も来ているが、毎月1回、ときわ屋で新しい飼い主を探す会と相談会を開催している。今日も12匹捨て猫がきたが、そうした猫を一時預かってくれる人も募集している。そういう形で活動に参加することもできる。餌などは会で面倒を見る。

お知らせ

浜松市は、今年の10月1日から飼い主からの犬と猫の引き取りが有料になった。いかに飼い主が無責任に捨てるかということが伺えるが、ザル法みたいなもので自分の猫ではないと言えば無料で引き取ってもらえるのではと思ってしまう。ただ、有料にすることで引き取りをしたくないという行政の強い気持ちが読み取れる。

映画「犬と猫と人間と」について

来年度の事業として、行政とこの映画を普及する活動をしようかと話をしていた矢先、シネマイーラで上映すると聞きゼロの会でもチケットの販売などの協力をしている。この映画は、ただかわいい、かわいそうだけではなく、未来発信やメッセージもたくさん入っている映画で、これを観て地域の中の猫もしくは自分達が飼っている猫のことや、人間と動物がどうやったら共生できるか、どうしたら命を大切にできるのかということをおみなさんで考えてほしい。そして私もよりいっそう考えて活動をしていきたいと思う。